

ドナウ の 四季

2019年 夏季号 第43号

政権政党によるメディアの囲い込み	盛田 常夫	1
消費増税を選挙の道具にする愚		4
テケルーを習いに	松山 純	9
日本の陰の英雄：サービス業の従業員	Német Vivien	12
日本の部活	Kövesdi Barbara	14
悲劇の枢機卿ーミンツェンティ・ヨーゼフ	木村 香織	16
東欧世界の代表的思想家ールカーチ・ジョルジュ		18

Heat Therapy in Oncology—Oncothermia
New Paradigm in Hyperthermia
Andras Szasz and Tsuneo Morita

腫瘍温熱療法—オンコサーミア

ハイパーサーミアのパラダイム転換——医術から医学へ

サース・アンドラーシュ／盛田常夫〔著〕



日本評論社

温熱治療のパラダイムを転換する

温熱治療を根本から見直し、
あるべき手法を示した著書。

曖昧な日常知を科学によって解明した画期的な著作。

オンコサーミア治療器は世界25カ国で利用。
ドイツでは百か所以上のクリニックで、
韓国の主要な大学病院に設置。

好評発売中。定価3200円+税。
大手書店、Amazonにて購入可。

第4章 腫瘍温熱療法

- 4.1 腫瘍温熱治療の基本概念
- 4.2 ハイパーサーミアの手法
- 4.3 熱の作用と併用効果
 - (1) 熱と血流
 - (2) ハイパーサーミアの併用効果
- 4.4 ハイパーサーミアの熱生成
 - (1) アンテナ放射
 - (2) 磁場(コイル)
 - (3) 容量性カップリング
 - (4) 伝導加熱
- 4.5 ハイパーサーミア治療が抱える問題

第5章 オンコサーミアの理論と方法

- 5.1 電場の利用
- 5.2 細胞燃焼
- 5.3 腫瘍治療における細胞加熱
- 5.4 ミクロスコピック加熱
- 5.5 集束化の原理
- 5.6 温度の役割
- 5.7 安全性
- 5.8 積算量(ドーズ)
- 5.9 臨床事例

第6章 自然療法としてのオンコサーミア

- 6.1 ホメオスタシスの復位
- 6.2 細胞の自然死の促進
- 6.3 細胞転移の阻止
- 6.4 転移がん細胞に作用

第1章 ハイパーサーミアの歴史と評価

- 1.1 ハイパーサーミアとは何か
- 1.2 ハイパーサーミアの曖昧さと課題
- 1.3 ハイパーサーミアの歴史的概観
- 1.4 腫瘍治療のハイパーサーミア

第2章 ハイパーサーミアの物理学

- 2.1 電磁気学の基礎概念
 - (1) 電磁気現象
 - (2) 電場と磁場
 - (3) キャパシタ
 - (4) 位相シフト
 - (5) インピーダンス
 - (6) 電磁波
- 2.2 バイオ電磁気学
 - (1) 電磁波スペクトル
 - (2) バイオインピーダンス
- 2.3 「非熱」効果
 - (1) 非温度依存(NTD)効果
 - (2) 電磁場におけるNTD効果
 - (3) 電磁気による目標選択
 - (4) 電磁気と生体システム

第3章 ハイパーサーミアの生理学

- 3.1 生体におけるエネルギー、熱、温度
- 3.2 生体における温度制御
- 3.3 生体の加熱と体温
- 3.4 加熱による温度の分布
- 3.5 全身加熱と局所加熱の本質的な差異
- 3.6 加熱と冷却:リスクとその回避
- 3.7 温度測定と熱積算量(ドーズ)

政権政党によるメディア囲い込み

盛田 常夫

ハンガリーの日刊紙や週刊紙は契約購読者が少ないために、スポンサーなしでは経営が成り立たない。ながらく旧社会主義労働者党（ハンガリーの共産党）の機関紙的な役割を果たしていた日刊紙 Népzsabadság は、2016 年 10 月 8 日に廃刊が決まり、戦後 70 余年の歴史を終えた。数万人の定期購読者だけでは経営を維持することができないのである。政府系日刊紙 Magyar Nemzet も、定期購読者だけでは経営を維持できず、政府からの広告収入によって経営が維持されている。

現在、発刊が続いている日刊紙や週刊紙は、僅かな例外を除き、政府の広告収入で経営を維持している。政府からの広告収入があるかないかが、発刊継続の必要条件になっている。

政府系メディア帝国の樹立

紙の媒体による情報発信が難しくなっている状況の中で、政府の支援を受けたフリーペーパー Lokál が、不透明なビジネスを展開し始めた。これを発行したのは、定住権付き国債で暗躍したハボニィ・アルパードと首相府次官を務めたことのジュリー・ティボールが所有するメディア企業（Modern Media Group Befektetési és Vagyonkezelő Zrt.）である。

ブダペストの公共交通機関（BKK）、とくに地下鉄の駅で無料配布されていた Metropol は、所有者とオルバン首相の対立から広告収入が減少して赤字が累積し、18 年の歴史を終えて 2016 年 6 月に廃刊となった。

この廃刊を受けて、2016 年 6 月からオルバン首相の強い信任を受けているハボニィたちは政府と公共企業の広告収入を元に、新たなフリーペーパー Lokál（日刊 Lokál と週刊 Lokál Extra）を発刊した。日刊 Lokál は 15 万部ほどの発行で地下鉄各駅に配置され、

ブダペスト市内では週刊 Lokál Extra が各戸に配布されている。2019 年 6 月初めの週刊 Lokál Extra を見ると、政府広告が 4 面、政府系企業である宝くじ会社（Szerencsjáték Zrt.）が 2 面の広告を出している。政府と政府系企業の広告で印刷費を捻出し、そのほかの広告収入で利益を出しているものと思われる。ただし、少なくともブダペストに全戸配布されている週刊 Lokál Extra 紙には読むべき記事は一つもない。政府の広告収入を得るための事業以外の何物でもない。

しかし、問題は Lokál 紙の発行という小さな問題に留まらない。Lokál 紙の発行母体は、2018 年に設立された Közép-Európai Sajtó és Média Alapítvány（略称 KESMA、中欧新聞・メディア基金）に移管されたが、これは FIDESZ が政府寄り民間メディアを統括する組織として 2018 年 9 月に設立したものである。この組織が ECHO TV、OPUS Press、New Wave Media Group、Magyar Idők Kiadó の FIDESZ 系 TV や出版社を傘下に置き、ブダペストを中心に配布されている Lokál 紙のみならず、政府補助金を得て地方で発刊されている紙誌、政府系ポータルサイトなど、470 のメディアをこの組織に収めた。この組織の傘下に入るとは、公的補助金や公的な広告収入が計算できることを意味する。政府による公金を使ったメディア支配である。

KESMA が 4 社（CHO TV、OPUS Press、New Wave Media Group、Magyar Idők Kiadó）の所有権を得た後に、政府は 2018 年 12 月 5 日付けの政令（Kormány 229/2018. (XII.5) Korm. Rendelet）において、「KESMA によるこの 4 企業の取得は国民的戦略重要性をもつもの」（オルバン首相署名）と認定した。この政令が意味するところは、「この 4 社の取得には他の政府機関（競争庁や国会の「メディア評議会」）の査察・

監査権限が及ばない」ということである。市場の独占と競争制限の規定に触れる恐れがあるために、前もって、査察・監査が及ばないことを政令で定めたのである。政権政党による恣意的な認定である。

この組織 KESMA の立ち上げにたいし、野党は一斉に非難し、4 社を取得した KESMA を政府の監査から外すことは憲法違反だと主張し、憲法裁判所へ提訴した。欧州委員会は、「政府が主導して、ハンガリーの報道界の自立性を害し、メディア市場への政治介入を図る」疑いがあるとして調査を始めた。この問題は 2019 年 2 月 20 日の欧州議会文化・教育委員会で取り上げられた。この席で、FIDESZ 欧州議会議員ボチコル・アンドレアは、「ハンガリーのメディアは 69%が政府に批判的で、31%が政府に好意的にすぎない」のだから、欧州委員会の懸念は当たらないと反論している。

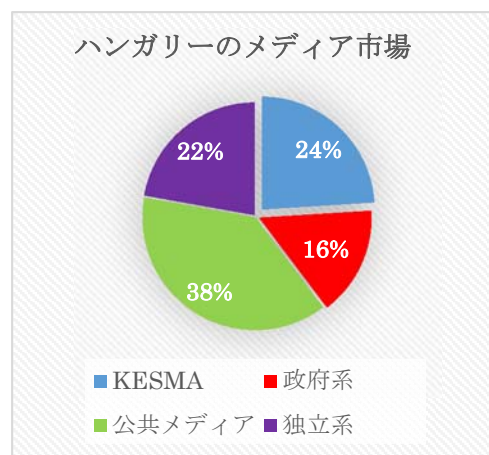
メディア支配の現状

反政府系のポータルサイト Mérték és Átlatszól は、KESMA 傘下の企業に、政府系のメディア企業を加えると、メディア市場の 64.1%が政府寄りのメディアが占めていることを明らかにしている。

さらに、公共メディアである。MTVA の 2017 年予算が 940 億 Ft であり、これをすべて政府系として計算すると、メディア市場の 77.8%が政府系メディアということになる。もっとも、公共放送のすべてを政府に好意的なメディアと断定することに無理はあるが。

民間メディア市場に占める政府系企業のウエイト			
	総収入 億Ft	KESMA傘下 億Ft(%)	KESMA+政府系 億Ft(%)
印刷物(17社)	600	468 (78%)	481 (80.2%)
ラジオ(5社)	36	3 (8.0%)	31 (86.7%)
テレビ(5社)	777	65 (8.4%)	410 (52.8%)
ポータルサイト(4社)	115	56 (49.2%)	5.6 (49.2%)
合 計	1527	592 (38.8%)	979 (64.1%)
注:2017年のデータにもとづく。			
出所: https://mertek.atlatszoz.hu/mindent-beborit-a-fidesz-kozeli-media/			

いずれにしても、KESMA は FIDESZ 支持の実業家の寄付や政府の補助金で機能する一大メディア帝国を構築することになった。



政府批判が許されない政府系メディア

政権政党が肝いりで設立した KESMA や政府の支援を得て存続しているメディアは、一切の政府批判が許されない。政府は政権政党の支援者の税金だけで維持されているのではない。政府に批判的な市民からの税金によっても支えられている。したがって、政府がお金を出しているから政府批判は許されないというのであれば、昔の社会主義体制時代を変わらない。これを象徴するような事件が発生した。

2018 年 9 月 25 日、政府系シンクタンク Századvég 発行の雑誌の最新号 (Századvég, 88.2018/2) が発刊停止となり、HP から削除されたというニュースが流れた。もっとも、そういう雑誌があったことを知っている人は少なく、このニュースに接して初めて、削除された雑誌の PDF をダウンロードする人が増えた。このニュースと共に、雑誌 Századvég 編集部が解散させられたというニュースが流れた。削除された PDF は、削除される前に多くのポータルサイトに流され。現在、この号の PDF は、<https://transparency.hu> のサイトからダウンロードできる。ただし、ハンガリー語である。

Századvég は毎年、政府から巨額の発注を受けている政府系シンクタンクであり、雑誌の編集委員会にはオルバン首相も名を連ねている。この雑誌の 2018 年第 2 号は「レント (超過利潤)」をテーマに、何人かの論者に投稿を求めたものだった。巻頭論文は旧 SZDSZ 系の経済学者ミハイ・ピーテル (コルヴィヌス大学) とアメリカ在住のハンガリー人社会学者セレーニ・イヴァン (ニューヨーク大学) が、*Comparative Sociology* 16(2017) pp.1-26. に発表した英語論文をハ

ンガリー語に訳したもので、原論文名は The Role of Rents in the Transition From Socialist Redistributive Economies to Market Capitalism である。タイトルから内容が想像されるが、著者たちは FIDESZ 政権に批判的なことで知られている。ただ、発刊停止の直接的な理由になったのは、2006 年の総選挙にオルバン首相が FIDESZ の首班候補として擁立したボッド・ピーテル・アーコシュの論文である。ボッド論文のタイトルは、Bérek, profitok és járadék harca magyar szemmel (Struggle of Wages, Profits and Rent in Hungarian Eyes) で、ハンガリーの賃金上昇が鈍い原因は、政府がレントを独占していることにありと主張するものだった。この論文のなかで、世界銀行が公表している Worldwide Governance Indicator からハンガリー、オーストリア、チェコの 3 カ国の指標比較表を掲示した。

この表によれば、チェコの統治力は 2010 年を契機に改善の方向に向かっているのにたいし、ハンガリーの統治力は 2005 年以降、悪化の一途を辿っている。この指標の信頼性には疑問の余地はあるが、この指標比較が FIDESZ の政治家の目にとまった。FIDEZS 政権になってから、統治力のレベルが下がっているという結論は受け入れられないのだ。

指 標	暦 年	ハンガリー	オーストリア	チェコ
政府の効率性	2005	0,80	1,72	0,97
	2010	0,67	1,84	0,91
	2015	0,49	1,47	1,05
諸規制の質	2005	1,11	1,61	1,11
	2010	1,02	1,46	1,3
	2015	0,77	1,43	1,08
法治の水準	2005	0,83	1,86	0,82
	2010	0,75	1,81	0,93
	2015	0,40	1,85	1,12
腐敗の制御	2005	0,62	1,96	0,46
	2010	0,25	1,63	0,26
	2015	0,10	1,49	0,39

注：+2,5から-2,5までの5点評価が行われ、数値が低いほど低い評価と
出所：WGI 2017より、ボッド論文が比較のために作成したもの。

政府発注を受けて事業を展開しているシンクタンクが、政府を貶める論文を掲載するのは「以ての外」というのが、FIDESZ 政権の立場である。しかも、「政府がレントを利用して利潤を独占しているために、賃金が増えない」という結論は、到底受け入れられない。当該の雑誌が削除され、発刊停止になっただけでは

ない。このような論文掲載を許可した編集部は反政府的であるとして、編集部員全員が交代させられた。政権を支持する者であっても、オルバン政権に完全に賛意を表明できない者は重要ポストから排除されるべきというのが、オルバンあるいはオルバンの意向を忖度する政治家の基本的なスタンスである。公的補助を受けている機関は、オルバン政府が実行する政策や成果を批判することは許されないのである。

ボッド論文問題が冷めやらぬ 2019 年 2 月 4 日、設立されて間もない FIDESZ のメディア帝国 KESMA のアドヴァイザリーボード委員長で、元 FIDESZ 国会議員のヴァルガ・イシュトヴァーンが辞任した。辞任の原因になったのは、その 2 週間前にポータルサイト 24.hu に掲載されたヴァルガ委員長の長文のインタビュー記事 (<https://24.hu/belfold/2019/01/22/varga-istvan-interju-media-alapitvany/>) である。

このインタビューで、ヴァルガは率直に意見を表明し、「KESMA 傘下の紙誌の記事レベル（は低いので）を、（政府に批判的だが読み応えのある）ÉS (Élet és Irodalom) 紙のレベルに上げることが一つの目標」、「私は右の紙誌も左の紙誌も読んでおり、1976 年以来 ÉS を購読し、月ごとに ÉS 紙を綴じて保管している」、「公共メディアは傍目から見ても完全とは言えない。政府批判の街頭デモも取り上げるべき」、「KESMA はリスカイ・ガーボルのアイディアで設立され、私はリスカイの要請を受けて、ボード委員長に就任した」と述べた。この喋りすぎが、オルバンへの忠勤に励む忖度政治家の目に留まった。このインタビュー記事がネットで流れてから 2 週間後、ヴァルガはリスカイに辞意表明を行い、リスカイがそれを承認した。

この二つの事例からうかがえるように、現在の FIDESZ 政権は旧社会主義体制時代の共産党支配にますます近似している。「100%味方でない者は、皆、敵」という偏狭な発想にもとづいて、メディア支配に力を注いでいる。政府を支えている税金は、政権政党を支持する者も支持しない者も収めているお金である。支持する者のためだけに税金が利用されるのは社会的公正の観点から受け入れられない。政府は批判を受け止めるだけの度量を持つ必要がある。それが近代の民主主義政治であるはずだ。

ハンガリーを代表する赤ワインワイナリー
GEREワイナリーが日本人のワイン愛好家の皆様に、通販サイトを開設しました。

www.gere-club-japan.com

GERE

GERE ATTILA PINCÉSZETE



KOPAR 2012は皆様のご愛顧のお陰で、在庫切れとなり、販売を終了しました。今後は、**KOPAR 2015**をよろしくご愛顧ください。

最高級赤ワインのセットを、ご自宅に配送します。
日本へは国際宅急便(6本の配送費90ユーロ)で、
ハンガリー国内は200ユーロ以上の注文で送料が無料になります。



各種ワインセットの他に、低温圧搾ぶどう最高級オイル、
ぶどうの種と果皮をミクロンのサイズに粉碎した、
ポリフェノミクロンも、通販サイトを通して購入できます。



GERE-CLUB-JAPANの会員になれば、
各種の特典が得られます。GERE ホテルの予約も、
通販サイトを通せば、日本語で予約ができます。



www.gere-club-japan.com

消費増税を選挙の道具にする愚

盛田 常夫

選挙が近づくとつれ、安倍首相の親衛隊「経済学者」(アベノヨイショ)が、消費税引上げの断念を官邸に迫っている。もっとも、選挙で負けたくない官邸が、アベノヨイショを総動員して消費増税延期の「世論」を創り出そうとしているのかもしれない。しかし、消費税引上げは短期の景気の話ではない。将来社会を安定的に維持するための長期の政策問題である。

国家財政の赤字は GDP の 10%

アベノヨイショの主張に欠如しているのは、現在の国家財政赤字の基本理解である。毎年、GDP のほぼ 10%に相当する歳入不足が存在することは、国民が負担しない政府サービスを国民が受給していることを意味する。つまり、政府サービスに限定すれば、国民は過剰消費していることを意味する。

日本の歳出と歳入 (対 GDP 比、%)

	2009 年	2013 年	2017 年
歳 出	40.72	40.83	38.90
歳 入	29.80	31.22	32.55

この過剰消費を担保しているのは、将来世代から徴収する税金である。税の前借りで現在の政府サービスを賄っているのが、現在の日本である。しかも、その税の前借り額は現在の税金の 20 年分にもなる。ふつうの家計であれば、とうの昔に破産している。20 年分の年収を前借りしているのと同じことだからである。国家財政がすぐに破産しないのは国の経済規模が大きく、民間経済が大きな問題を抱えることなく、国民経済を支えているからである。

アベノヨイショの御仁たちの消費増税反対の主張は、これだけ借金を抱えていても国家財政が破綻していないのだから、さらに借金しても構わない理由をいろいろ考えついているだけのことだ。崩壊寸前の北朝鮮社会だっていまだ存続している。ソ連だって 70 年はもったし、東欧社会主義国は 40 年もった。戦争さえしなければ、借金漬けの経済でも数十年の単位で生き延びることができる。だが、いずれ各種の負債を抱え込んだ体制は崩壊し、ハイパーインフレと資産消滅を招く。その深刻度は体制が積み上げてきた累積債務に依存する。ソ連崩壊や東欧社会主義崩壊から経済学者は何も学んでいない。

すぐに崩壊しないから借金経営をいつまでも続けて良いのではない。累積債務が大きけ

れば大きいほど、崩壊時のショックが大きくなる。日本だって、いつか債務を処理しなければならぬ時が来る。その時に騒いでも遅い。アベノヨイショの御仁などは毫碌（もうろく）老人になってしまっ、自分の主張すら忘れてるだろう。アベノミクスを推進した政治家も生きてるかどうかわからない。誰も責任を取らないし取れない。最後は国民がすべての負債を引き受け、「ご破算で願ひましては」でリセットされるだけなのだ。

ヨーロッパでは財政支出の水準は高いが、その分税負担も重い。税負担なしに、高度の社会的サービスが得られることはあり得ない。それは将来世代に借金を負わせるだけだからである。

EU 諸国の財政支出（対 GDP 比、％）

	2009	2017
フランス	57,2	56,5
フィンランド	54,8	54,0
ベルギー	54,2	52,2
デンマーク	56,5	51,2
ノルウェー	46,1	49,9
スウェーデン	52,7	49,3
オーストリア	54,1	49,2
イタリア	51,2	48,7
ギリシア	54,1	47,3
ハンガリー	50,4	46,9
ポルトガル	50,2	45,7
クロアチア	48,3	45,0
ドイツ	47,6	43,9
スロヴェニア	48,2	43,2
ルクセンブルグ	45,1	43,1
アイスランド	47,4	42,5
オランダ	47,6	42,5
ポーランド	45,0	41,1
スペイン	45,8	41,0
英国	47,3	40,9
スロヴァキア	44,1	40,2
エストニア	46,1	39,3
チェコ	44,2	39,0
ラトヴィア	44,2	37,8
キプロス	42,1	37,5
マルタ	41,9	36,2
ブルガリア	39,4	35,1
スイス	33,2	34,2
ルーマニア	39,7	33,6
リトアニア	44,9	33,1
アイルランド	47,0	26,3

EU 諸国の付加価値税率 (%、2018 年 7 月現在)

	特別軽減 税率	軽減税率	標準税率	一時的税率*
ベルギー	-	6 / 12	21	12
ブルガリア	-	9	20	-
チェコ	-	10 / 15	21	-
デンマーク	-	-	25	-
ドイツ	-	7	19	-
エストニア	-	9	20	-
アイルランド	4.8	9 / 13.5	23	13.5
ギリシア	-	6 / 13	24	-
スペイン	4	10	21	-
フランス	2.1	5.5 / 10	20	-
クロアチア	-	5 / 13	25	-
イタリア	4	5 / 10	22	-
キプロス	-	5 / 9	19	-
ラトヴィア	-	12	21	-
リトアニア	-	5 / 9	21	-
ルクセンブル グ	3	8	17	14
ハンガリー	-	5 / 18	27	-
マルタ	-	5 / 7	18	-
オランダ	-	6	21	-
オーストリア	-	10 / 13	20	13
ポーランド	-	5 / 8	23	-
ポルトガル	-	6 / 13	23	13
ルーマニア	-	5 / 9	19	-
スロヴェニア	-	9.5	22	-
スロヴァキア	-	10	20	-
フィンランド	-	10 / 14	24	-
スウェーデン	-	6 / 12	25	-
英国	-	5	20	-

* Parking rate。標準税率への移行を緩和するために、12%と標準税率との間の税率を設定。

幼稚な議論

「学者」か「評論家」か知らないが、アベノヨイショの御仁たちはとてもまともな論者と思えない。消費増税反対の根拠になっているのは、「日本の財政は破綻しない」という主張である。そのヴァリエーションはいろいろある。

1. 政府の債務だけが大騒ぎされるが、政府資産で相殺すれば純債務は小さい。だから、日本には財政問題など存在しない（高橋洋一、森永卓郎）

資産処分 of 具体的な方策が示されない限り、たんなる帳簿上の観念論に留まる。どういう資産をどのように処分して債務を減らすことができるのかを示さない限りは意味のない議論である。借金清算のために家屋資産を失ってしまえば、路頭に迷ってしまうではないか。

2. 「政府と日銀を統合政府で考えれば、債務と債権は帳消しにされる」ので、財政問題は存在しない（スティグリッツの誤解を真に受けた高橋洋一）。

これも国債発行を合理化する幼稚な観念論である。国民経済計算上の政府部門の債権債務帳簿処理の問題を、あたかも現実の債務問題の解決と思い込んでいる初歩的な誤解である。もしこんなことができるのであれば、どんどん国債発行して日銀に引き受けてもらえば、財政赤字問題など存在しない。年金危機も存在しない。議論するに値しない。スティグリッツの誤解をそのまま受け継いで、ノーベル賞経済学者のご宣託を有り難がっている「経済学者」の社会的常識はこの程度のものである。

3. GDP の過半以上を占める消費を抑制すれば、景気が後退することは目に見えている。だから、消費増税をやってはいけない（藤井聡ほか多数）。

GDP の定義式から消費を抑制すれば、経済成長が止まると言っているだけのこと。同義反復の議論で、現実問題から出発するのではなく、定義式から結論を出すという典型的な観念論である。人口減少時代を迎える日本に高度経済成長時代が到来することはない。消費を増やせというなら、具体的に主張する必要がある。家計はもう 1 台乗用車を購入すべき、4K・8K のテレビを積極的に購入すべき、外食を週に 1 日増やすべきというように。そうすれば、いかに意味のない主張であるかが分かるだろう。

政府サービスを過剰消費しているのだから、消費を減らすか、負担を増やす以外に方法がない。いずれ高度成長で借金は消滅するなどという「高度成長神話」など、主張している本人すら本気で信じていない。

個人消費を増やす時代は終わった。個人消費から社会的サービスへの転換を図ることが日本社会の課題である。個人消費を切り詰め、社会的サービスに回すのが、日本が取るべき道である。個人消費も社会消費も増やしたいという調子の良い議論は成り立たない。税負担を嫌うのであれば、社会的サービスの低下を甘んじて受けることを選択しない

ければならない。

4. 国債が国内で消化されている限り、財政危機は起きない（炎上商法で講演料を稼いでいる三橋某）。

高々、海外投資家の投機的行動で国内経済が揺さぶられることはないということに過ぎない。国が債務を返済できない事態が到来すれば、国内国外は関係ない。国外の投資家ではなく、国内の投資家（国民）が資産を失うというだけのことである。

5. 国債は国民の債権だから、「国民の借金」という主張は嘘である（ほぼすべての素人論議）。

将来の税収を担保にしているのだから、その分だけ将来の国民は債権を有しているというだけのこと。債務不履行になれば、国民が資産を失うことに変わりはない。その時になって初めて、債権ではなく、債務だったことが分かる。

何時の時代でも国民は政府が何とかしてくれるだろうと楽観している。この点で、右も左も大差ない。「日本の国家財政は破綻しない」のではなく、すでに破綻している。その理解の不足が安易な主張を生み出している。歴史が示していることは、右も左も無責任なことだ。誰も体制崩壊の責任を取らない。もっとも、そういう政治を支えてきたのが国民なのだから、最後は国民が責任をとるしか方法がないのだろう。次の選挙のことしか考えていない政治家に、将来の日本社会のあり方を求めても無駄なことだ。せめて、無責任なポピュリスト政策によって膨大な累積債務を積み上げてきた与党に責任を取らせなければ、再び原発事故の尻拭いをさせられた民主党の二の舞になるだろう。

GERE

GERE ATTILA PINCÉSZETE

ハンガリー・ヴィッラーニ地方の赤ブドウ加工品

GEREワイナリー製品

無添加自然加工(自然の恵みもの)

ポリフェノミクロン(商標登録申請中)



100% SZŐLŐMAG OLAJ

シードオイル(箱付き、250ml)

ポリフェノールと不飽和脂肪酸を含んだ赤ブドウの極上低温圧搾シードオイル

成分構成: 不飽和脂肪酸 min. 80%, ポリフェノール min. 6%

使用法: サラダなどの冷たい食べ物に直接かけたり、パンへ直接かけて、ほのかな香りを楽しみ、食欲を増進。

1日の摂取量: 小さじ1杯(およそ5g)を毎朝、可能な限り、空腹時に摂取するのが望ましい。



SZŐLŐMAG & HÉJ MIKROŐRLEMÉNY

種子と果皮のミクロ粉末
(ポリフェノミクロン)
(カプセル180個)



KÉKSZŐLŐMAG & HÉJ

種子と果皮のミクロ粉末
(缶入り徳用缶、150g)

ポリフェノールをふんだんに含む有機栽培赤ブドウの種子と果皮を粉碎したミクロ粉末

ポリフェノール成分: 5gの粉末はおよそ250mgのポリフェノールを含む。

使用法: 粉末をそのまま食することは避け、ヨーグルトなどに混ぜて食する。

1日の摂取量: 1日に小さじ1杯の粉末を2回に分けて摂取。

100% SZŐLŐMAG OLAJ/ KÉKSZŐLŐMAG & HÉJ

シードオイル&ポリフェノミクロンセット
(化粧箱入り)

以下のサイトから購入できます。

<https://www.gere-club-japan.com>

テケルーを習いに

松山 純

数年前、ひょんなことから壊れたテケルーを手に入れた。

その数年前に、これまで楽器を弾いたこともなかったのに中世仲間の影響でハーディガーディという奇妙な楽器に興味を持てしまい、たまたま幸運に恵まれて海外オークションで手に入れてしまい、音を出して遊んでいたのだが、ある日友人から国内のネットオークションでハンガリーのハーディガーディであるテケルーが出品されているのを知らされた。サイトをのぞいてみると、この個体は壊れているものの自分で直せなくはなさそうである。「これはハンガリー史に興味がある私に落札せよという天のお告げに違いない!!」と勝手な思い込みのもとに入札に参加したところ、運よく入手に成功し、数日後には手元に大きな荷物がやってきた。勢い込んで箱を開封してみると、弦を押すタンジェントほかいくつかの部品が欠損し、弦を擦って音を出すホイールを回すハンドルが曲がってはいるものの、このぐらいなら自分で何とかできるだろうという見立て通りだった。

私は古いバイクを自分で修理するのも好きなのだが、それと同じようにテケルーの修理に取り掛かった。壊れた木製の部品は東急ハンズに出かけて何種類かの木の板を購入し、材質を比較してオリジナルに近いものを選んで自作。曲がったハンドルは行きつけのバイク屋さんに持って行ってプレスで修正してもらった。弦の選択等で試行錯誤はあったものの、およそ半月後にはな

んとか楽器として音が出る状態まで復活させることに成功したのであった。

直ったテケルーやハーディガーディを弾く友人たちとの練習会に持ち込んで、一緒に音を出して遊んでいたら（弾いているとは言いたくない）、友人が動画を撮って SNS に投稿してくれた。その後しばらく経ってから友人から驚きの知らせが来た。なんと動画を見たハンガリー人のテケルー奏者の F さんから、日本訪問の予定があるので、その際にテケルー演奏方法を教えて下さるとのメールを送って下さったとのこと。こんな機会はまずないので、ありがたくお受けして、友人たちと一緒に、来日した F さんからテケルー演奏の初歩中の初歩を教えていただいたのであった。

その後は、動画サイトでハンガリーのテケルー奏者の方々の演奏を参考に我流で練習していたのだが、このたびハンガリーへ旅行するに際して F さんにご連絡し「テケルーのコンサートを聴ける機会はないですか？」と質問させていただくと、「コンサートもありますが、その前に 1 日テケルーの講習会があるので参加をお勧めします」というご連絡をいただいたのであった。とてもうれしい一方で、そもそも私は全く譜面が読めないし、テケルーに関してはなんとか音が出せる程度で、こんなレベルの人間が参加しても良いものかと大いに迷ったのだが F さんの強いお誘いと、テケルー奏者の高久さんが「講習会はすべての人に対して門を開いています」とおっしゃってくだ

さったことに勇気づけられて、無謀にも参加を決意したのであった。



小雨の降る 5 月 日の朝、バッチャーニ・テール駅で F さんと待ち合わせて、HÉV に乗り換えて会場の最寄り駅まで向かった。楽器を持ってきていない私のために F さんはご自分の愛用の楽器を私に貸して下さり、ご自分は友人から楽器を借りて講習会に参加されるとのこと。私のような下手くそが楽器を借りて一日音を出すと、楽器に変な癖がつくのではと心配になるのだが、「大丈夫ですよ」と言って下さる。講習会場の最寄り駅のポマーズ Pomáz で下車し、集落の中を小雨に降られながら会場に向けて歩くこと約 15 分、会場となっている施設に到着した。ここはもともと貴族の館だった場所で、現在では館はそのまま保存されているが、同じ敷地の中に講習会の会場として使

われている研修施設や、夕方にコンサートが開かれる小ホールなどが併設されている。

会場に入ると講習には楽器が大きすぎるんじゃないかと心配になるような小さな子供さんから年配の方までいろいろな年齢層の方が参加されている。講師の方々は、日ごろ動画で演奏を拝見している有名なテケルー演奏者の方が何人もおられて、大いに驚き、こんな場所に来てよかったのかと相当に心配に・・・。

講習は先生が課題となるメロディを弾いたあと、一人ずつ同じフレーズを弾き、先生から指導を受けるという形で進められるのだが、小さな子供さんやら、私のような初心者から、F さんたちのような演奏家の方まで同じように指導を受けるというのが何やら新鮮。途中からはハンガリーの民族楽器ツィトラの奏者の方が講師に加わって、民謡のメロディを紹介し、それをテケルーで弾くと言う講習が行われた。



講習は非常に興味深いものの、私の場合メロディを覚えるのが精いっぱい、テケルー演奏の肝である右手でハンドルを操って唸りゴマでリズムを刻むところは全くダメ・・・。これでは水準が違い過ぎて他の方に迷惑だし、自分としても基礎的な演奏方法を習いたかったので、途中から初心者の

子供たちを集めて入門者向けの教室が別の部屋に移動して行われることになった（このあたりは実に臨機応変で子供たちのモチベーションが落ちないように細やかな心配りをされている）ので、F さんのお勧めに従い、先生にお願いしてそちらに参加させていただくことにした。小学生の子供たちと一緒に数時間にわたって講習を受けたが、子供さんたちの上達の速いこと速いこと・・・若いと言うのは素晴らしいし、自分の物覚えの悪さにはほんと呆れた次第。せめて 10 歳若ければなあと思うのだがこればかりは仕方がない。子供たちよ・・・これでもオジさんは頑張ったのだよ・・・

休憩時間に建物の外に出てみると、大きなお鍋でグヤーシュがぐつぐつ音を立てている。これが今日のお昼ご飯ということなのだが、完成予定は午後 3 時頃になるらしい。空腹に耐えかねて F さんたちと街中まで出かけて食料品店でパンを購入して食べて、それから再度練習に参加した後、やっとお待ちかねのグヤーシュが出来たとのお知らせが。大きなお鍋からお肉たっぷりのグヤーシュをお皿に取り分けてもらって、ふうふう言いながら食べて大満足。お腹が苦しいぐらいになったせいか、食事が終わったあたりで練習は自然解散状態になり、荷物を片付けてホールに移動してコンサートを聴くことに。テケルーゼネカルという今回講師をされたテケルー奏者皆さまのバンドによる演奏は大迫力。これだけの台数のテケルーの演奏を聴く機会は日本ではありえないし、ハンガリーでもなかなかないのではなからうか。コンサートが終わると会場にはハンガリーの民族ダンスの先生が現れ、テケルーゼネカルに加えて F さん他

講習会に参加したテケルー奏者の方も伴奏に加わったダンス教室に早変わり。タンズハーズという言葉は知っていたし、それに関する日本語の書籍も読んでいたが、見ると読むとは大違い。よくあんなに体が動くものだと感心してしまう。参加できたら楽しいのだろうが、運動神経皆無の腰痛持ちが挑戦するにはハードルが高すぎる。

ダンス教室が終わると一日のプログラムはすべて終わり。皆さんにお礼を言って会場を後にする。参加者の方のご厚意により車で市内まで送っていただき、バッチャーニ・テール駅で F さんにお礼を申し上げてお別れ。ひょんなことからご縁が出来た F さんのおかげで本当に得難い体験をした 1 日だった。

もし、また機会があるならば、参加してみたいと思うし、それまでもう少しともにテケルーが弾けるようになっていたい。また、ハンガリーにお住まいの方には、こんな得難い機会が身近にあるので、ご興味がある方には是非テケルーを始めていただいて、日本でテケルーを広めていただきたいと思う。

最後に、常にお世話になりっぱなしだった F さん、躊躇していた私の背中を押して下さった高久さんに心から感謝して、この駄文を終えることとしたい。



日本の陰の英雄：サービス業の従業員

Németh Vivien

日本の最も重要な資源は、人的資源であると言われている。人手が非常に必要な日本のサービス業は、短所の要素はあるものの、世界的に有名である。しかし、サービス業で働いている人は、どのような大変さに直面しなくてはいけないのか？個人の経験について少し述べたいと思っている。



わたしは、新潟市の事業創造大学院大学に留学していて、文部科学省の研究生奨学金を頂いている。お陰さまで、ビジネス・マネジメントの資格、MBA を取得できるようになったし、日常生活を特に問題なく送れる。それでも、大学院に通いながらアルバイトに挑戦することに

した。バイトは、面倒な勉強を少し忘れたと感じるときに、一時的に異なる環境に逃げられるし、経験、または知識も得られるので、貯金できるお金を稼ぐためだけではなく、役に立つことだと思ったからだ。

このように目的を決定して、仕事を探し始めた。

まずは、自分も経験がある分野で色々検索を試してみた。残念ながら、翻訳と通訳の機会はなさそうであった。次に外語教育について探してみたが、ハンガリー語教室は新潟にないし、英語は資格を持っている者か英語を母語とする者しか教えられないということであった。従って、その3つ以外のアルバイトにチャレンジしようと思った。

日本のサービス業は人手不足の問題が存在しているので、もちろんサービスに関する求人は常に多いが、私は経験が全然なく、心配した点が多数あった。お店・コンビニ・レストランで、日本の従業員は、お客様を神様として扱うというイメージがある。店員さんが顧客に対して元気に挨拶し、言葉遣い・敬語に十分に気をつけ、心を込めて顧客の相手をするということは、自

分も顧客側から何回も経験した。間違いをしてもその後できちんとした行動をとり、失礼な顧客であっても丁寧な対応をする。私は、自分にもそのようなお仕事ができるのだろうかと迷っていた。

色々なお店に応募したが、9 回も断られた。10 回目はもう諦めるところだったが、結局、雑貨店の店員さんとして採用された。偶然だったが、そのあとすぐ、家の近くにある、よく行っているラーメン屋さんからも「もし宜しければ、一緒に働きましょう」という電話が来た。それで、仕方がなく、2つのアルバイトを同時にすることになった。留学生の場合、一週間の勤務時間は 28 時間に限られているが、わたしは2つのお店をまとめても最大 20 時間ぐらいまでしか働かなかったので問題はなかった。

始めは、大変なところが無論あったが、先輩の方々に、教えたり、手伝ったり、支援したりして頂いて、どちらのお店の仕事にも段々慣れてきた。仕事の難しさを感じて、サービス業で働いている人々を今までよりも尊敬するようになった。楽しい時間も辛い時間も過ごしたし、好きなお客さんにも嫌いなお客さんにも会った。笑顔が一番素敵な店員ではなかったかもしれないが、できる限り頑張ったと思っている。

だが、半年が経って、体調が悪くなってきたので、しっかり休まないといけなくなり、体に辛い仕事であるラーメン屋さんの方をやめたほうがいいという助言を先生からもらった。ラーメン屋さんの店長には優しく理解して頂いた。皆ととても仲が良かったので、私は今でも毎週お店を訪問するし、店長が毎回カウンターから出てきて話をしてくれる。

逆に、雑貨店に体調不良の状況、そして一時的に働けない状況について報告したら、「お大事に」ではなく、「迷惑をかけたから、皆に謝ってください」と言われた。元々は治ったらそこのお店でバイトを続けたいと思っていたが、次回の出勤のとき、退職依頼書を出した。その時点では他のバイトを見つけていなかったが、「このようなことを言われるところに勤めたくない。後悔することはない。」と考えていた。

しかし、びっくりするほど早く、新しい仕事が決まった。サービス業の大手企業の人材マネジメントに貢献できる仕事である。大学院で得た知識を活用できるし、キャリア的に役に立つアルバイトである。その上、2つ共のお店の経験を生かすことができる。これからはサービス業員の環境を以前より改善するために一生懸命頑張りたいと思っている。

(ネーメト・ヴィヴィエン)

日本の部活

Kövesdi Barbara

私は去年の八月から今年の五月の下旬まで留学生として福岡の西南学院大学で勉強しました。留学生向けの授業についての情報などが書いてある説明書に、留学生も入れるクラブやサークルのリストもありました。様々な留学生が、「せっかくだから、サークルに入ってみよう」と思って、カメラ部や美術部といったサークルに入ってみました。合気道部や茶道部などの日本らしい部活を選んだ留学生も結構いました。私も、「弓道部に入りたいなあ」と思って、友達と一緒に見学に行きました。弓道部のメンバーの皆さんは私にとってすごくかっこよくて、別の世界から来たかと思うほど、素晴らしい人たちでした。一回もミスをしなかったメンバーもいました。私は少し、弓道部の皆のファンになったようでした。

日本の部活は勿論楽しいことだけではなくて、大学生の生活の重要な一部分です。クラブに入って、クラブのために頑張ることが、学生生活の一番大事なことになる人も結構いるそうです。西南では水曜日の午後よく部活がありますので、この時、日本

人の大学生の授業はあまりないそうです。例えばカメラ部だったら、メンバー達が毎週、水曜日に会います。さらに、弓道部や合気道などの運動に関する部活だったら、試合もあります。そして勿論試合があれば、練習も多いです。普通、練習は一週間に四回で、もっと練習したかったら、それまでできるということのようです。



弓道部の練習は月曜日と水曜日と金曜日で、試合がなかったら土曜日の朝も練習がありました。しかし「全部の練習に来なくても良い、練習のための時間がある時だけ

来ればいい」と先輩たちは私に言いました。他のクラブでも、留学生の初心者には上のような答えをもらいました。先輩たちは優しく、できるだけ簡単に弓道のやり方を教えてくださいました。しかし、私はすごく下手です。初心者として、本物の弓を使って引くために今でも練習が必要です。弓道部のモナさんは異世界の人物ではなくて、ただ、毎週一生懸命頑張っている人だということもすぐ分かるようになりました。

留学生は、日本人学生の皆さんと仲良くできるでしょうか。実は、これはクラブや留学生の性格によって違うのではないかな、と思います。日本では、サークルや部活の人たちは本当に家族として、大学の卒業まで一緒に頑張ったり、遊びに行ったりします。自分の服を持っているサークルもたくさんあります。そして、一緒にたくさん練習して、秋に行われている大学祭で皆が今まで練習したりしたことを見せます。ダンスサークルでは夜の十二時ごろから朝六時まで練習しているグループもあります。私は、八月から西南で勉強して一年しか大学にいない留学生には、この「クラブ」という家族のメンバーになることは難しいのではないかなと思いました。しかし、できな

いとは言えません。たとえどんなに邪魔になっても、練習に行った時は私に弓道を教えてくれる人がいつもいて、皆、弓道を教えることは邪魔ではなくて楽しいと言ってくれました。他の留学生の話をする、歌のサークルに入って、最後に日本人のメンバーと一緒に自分のグループを作って、ライブで歌った人もいました。茶道部のメンバーとして、秋の大学祭でお客様にお茶を上げたりした留学生もいたようです。カメラ部の写真が見られるイベントでは、留学生のメンバーの写真もいつもありました。そして、ただ、サークルを応援するグループもありました。例えば、西南学院大学の野球チームを応援する留学生たちは、よくチームの試合を見に行ったりしました。

日本に留学している間に色々なサークルにも入ってみることは、楽しくて良い経験になるので、機会があればやってみるといいのではないかなと思います。そして、日本に留学していなくても、自分の大学でもきっと楽しいサークルが見つけれられると思います。

(ケヴェシュディ・バルバラ)

ハンガリー人物シリーズ

悲劇の枢機卿ーミンツェンティ・ヨーゼフ (Mindszenty József)

1892 年 3 月 29 日 チェヒミンツェント生れ、1975 年 5 月 6 日 ウィーン没

木村 香織



ブダペストの中心にそびえ立つ聖イシュトヴァーン大聖堂。その出口付近には悲劇の枢機卿ミンツェンティ・ヨーゼフを紹介したパネルがあり、大聖堂を訪れた人はミンツェンティの運命を知ることができる。ミンツェンティは、第二次世界大戦後ソ連の影響下で共産色が色濃くなってきたハンガリーにおいて反共産主義の人物として逮捕され、拷問を受け投獄された。1956 年革命時にナジ・イムレ政府により釈放されるが、革命が潰されるとアメリカ大使館に避難し、1971 年に隣国オーストリアに亡命するまでの 15 年間そこを出ることはなかった。今回はそんなミンツェンティ枢機卿の生涯を紹介したいと思う。

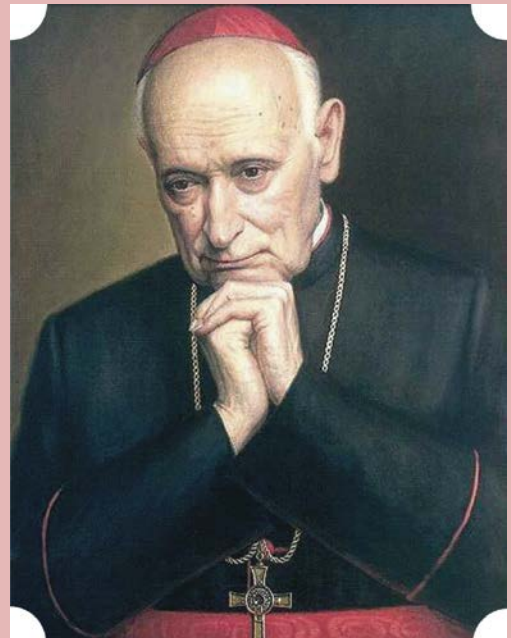
ミンツェンティ・ヨーゼフは 1892 年 3 月 29 日、オーストリア＝ハンガリー二重君主国の王領ハンガリー・ヴァシュ県の小さな村、チェヒミンツェント（Csehimindszent）で生を受けた。出生時姓はペヒム。彼の両親は農業を営んでいたということである。父親のヤーノシュは、若いころは村の裁判官や後見人、そして後には村の学校の校長を務めた人物であった。

ヨーゼフはチェヒミンツェントの小学校を卒業後、ソンバトヘイの聖ノルベルト神学校（ギムナジウム）、そしてソンバトヘイ教区神学校で学んだ。ソンバトヘイ教区神学校卒業後、ヨーゼフは司祭に叙階された（1915 年）。そしてその後の 1917 年、ザラエゲルセグにあるギムナジウムの校長になった。ヨーゼフは厳格な教師であったと伝えられている。

第一次世界大戦の敗戦色が色濃くなってきた 1918 年 10 月、ハンガリーでは民主主義革命が起き、カーロイ・ミハイを首とした連合政権が発足した。11 月にはハンガリー民主共和国として二重君主国から独立したがこの政権はすぐに行き詰まり、3 月にはクン・ベーラのハンガリー・ソヴィエト共和国が樹立した。ヨーゼフは当時の社会民主主義・共産主義に対抗し、1919 年 3 月に逮捕されてしまう。同年 5 月には釈放されるが、ハンガリー・ソヴィエト共和国が崩壊する 8 月までは故郷の村に幽閉されていた。

ヨーゼフはその後釈放され、1919 年 10 月にザラエゲルセグ教区の司祭に任命された。そしてそこでキリスト教的社会活動に力を注ぐようになる。そのおかげでザラエゲルセグ教区にはたくさんの新しい教会やカトリックの施設、学校が設立された。また、1924 年にヴァシュ県のポルノーアパーティ村の修道院長に任命されたことで彼の影響力はさらに広がっていった。

1941 年（一説には 1942 年 2 月）、ヨーゼフは苗字を故郷の村の名前的一部分から取り、ミンツェンティと改名した。以下、本文ではミンツェンティと記す。



政治への働きかけから逮捕まで

ミンツェンティは 1944 年 3 月、エステルゴムのバジリカでヴェスプレーム教区の司教に叙階された。政治的にはこの時期、ファシストの矢十字党

に対抗し独立小農業者党の活動に携わっていた。1944 年 10 月、ミンツェンティは数人の司教と共に反ユダヤ主義批判と停戦要求を書いた文書を政府に提出した。そのせいで2週間後に逮捕され、ショプロン郊外のショプロンクーヒダにあった刑務所に投獄された。そして 1945 年 4 月にソ連軍により解放されるまでそこに幽閉されていたのである。

1945 年 9 月、ミンツェンティは当時の教皇ピオ 12 世からエステルゴム大司教（ハンガリーの首都大司教）に指名された。彼はそれを受け入れ、エステルゴムに移った。その5か月後の 1946 年 2 月、同じく教皇ピオ 12 世から枢機卿に任命されたのである。

ミンツェンティは政治に関してもはっきりと自身の意思を示す人物であった。政府の政策に対し声を高くして反対意見を述べることもあった。それがゆえに、当時のハンガリー政府からは要注意人物として目をつけられることになっていくのである。

そして 1948 年 12 月 26 日、まさにクリスマスの翌日にミンツェンティはエステルゴムで逮捕された。ミンツェンティはブダペストに移送され、アンドラーシ通り 60 番地にある地下に投獄され、拷問を受けた。そして翌年 2 月、公開裁判で終身刑が課せられたのである。ミンツェンティが問われた罪は、「ハンガリーでハプスブルグ王政復古を試みた罪」「アメリカのスパイ罪」であった。もちろんこれはでっち上げである。ミンツェンティはその後の 1955 年に自宅軟禁に減刑された。その理由は、欧米諸国からハンガリー政府への要請、そしてミンツェンティ自身が病気であったことであった。

1956 年革命と亡命

1956 年 10 月 23 日に起きた民衆のデモは、ナジ・イムレの政権復帰とミンツェンティの釈放を要求した。ナジ・イムレが政権に返り咲くと、新しい政府は 10 月 30 日にミンツェンティを釈放した。ミンツェンティは釈放されるとすぐに政治活動を開始したのである。11 月 3 日にはラジオで演説も行った。

しかし翌日事態は急変した。11 月 4 日、ソ連が軍隊を率いてハンガリーに侵攻したのである。ミンツェンティはそれを受け、ブダペストのアメリカ大使館に避難所を求めた。そしてそれ以降 15 年間、ミンツェンティがそこから出ることはなかった。

1971 年 9 月ハンガリー政府はミンツェンティに出国許可を出し、翌月 23 日にミンツェンティはオーストリアのウィーンに亡命し、最後の数年をオーストリアの修道院で回顧録を執筆しながら過ごした。1975 年 5 月 6 日、ミンツェンティはウィーンの病院で 83 歳の生涯を閉じた。ミンツェンティ

の亡骸は彼の死から 16 年の 1991 年にハンガリーに戻され、5 月 4 日、エステルゴム大聖堂で再葬された。

ミンツェンティに関しては、先に述べた聖イシュトヴァーン大聖堂の展示でも見ることができるが、エステルゴムのミンツェンティ博物館やテロ博物館（ミンツェンティが投獄されていた旧ハンガリー国家保衛庁の建物）にはより詳しい展示がある。また、拙著『亡命ハンガリー人列伝』のミンツェンティ・ヨーージェフの項でより詳しく述べられている。

木村香織（2019 年）『亡命ハンガリー人列伝』
合同会社パブリブ 283-286 頁より。



ハンガリー人物シリーズ

東欧世界の代表的思想家ールカーチ・ジョルジュ (Lukács György)

1885 年 4 月 13 日 ブダペスト生れ、 1971 年 6 月 4 日 ブダペスト没

木村 香織



ハンガリー・ソヴィエト共和国崩壊まで

ルカーチ・ジョルジュは 1885 年 4 月 13 日、ブダペストの裕福なユダヤ人銀行家の家庭に生まれた。父ヨーゼフはハンガリー総合信用銀行の頭取を務め、後に帝国から男爵の称号を受けた人物であった。母ウェルトハイマー・アデールはウィーン出身であった。父が爵位を受けると、ジョルジュ青年も男爵となった。正式な名前は Georg Bernhard Lukács von Szegedin (ハンガリー語：Szegedi Lukács György Bernát) である。しかし、ジョルジュは執筆の際にはいつも「György Lukács」の名前を用いたようである。

ルカーチはギムナジウムを卒業すると、王立ブダペスト大学、ベルリン大学などで学び、1906 年にコロジュヴァール（現ルーマニア、ク

ルージュナポカ）のフランツ・ヨーゼフ大学で法学博士号、1909 年にブダペスト大学で哲学博士号を取得する。ブダペストで学んでいる時、社会主義サークル活動を行い、その活動を通じてアナルコ・サンディカリズム（無政府組合主義）を信奉するサボー・エルビンと知り合い交友を深めた。また、1904 年から 1908 年の間は演劇活動にも参加し、イプセン、ストリンドベリ、ハウプトマンなどの劇を上演した。この頃彼はモダニズム、現実主義に傾倒していたようである。

ルカーチは、1906 年から 1910 年の間ドイツのベルリンで学んだ。そして、哲学者、ゲオルク・ジンメルと知り合いになり、文化的諸現象を観念的、社会学的に分析することを彼から学んだ。また、ジンメルを通じてドイツのマルクス主義哲学者エルンスト・ブロッホと出会い、生涯にわたる交友関係を結んだ。彼との出会いは、ルカーチ・ジョルジュの思想の展開に大きな影響を及ぼしたと言われている。

1914 年、ロシア人女性と結婚したが、その結婚生活は 4 年で終わった。その後ゲルトルド・ボルトシュティーベルトと再婚し、彼女とは死別するまでの約 45 年を共に過ごした。

第一次大戦期にはルカーチはドイツで教鞭を執っていたが、この時期に彼の思想は徐々に左

派的な方向に転換していったと言われている。
1915 年、ルカーチはブダペストでディスカッションサークル「日曜サークル（Vasárnapi Kör : Sonntagskreis）」を主宰した。このサークルには後に各界で名をはせる人物たちも参加していた。ルカーチの思想に多大な影響を及ぼし、彼を最終的にマルクス主義者に転換させたのは第一次世界大戦とロシア革命であった。第一次大戦期、ルカーチはほぼドイツに滞在していた。

ルカーチは 1918 年にブダペストに戻りハンガリー共産党に入党、革命的知識人の指導者として文化革新運動に従事した。また、1919 年 3 月より党の新聞、「赤い新聞（Vörös Ujság）」の編集長を務めた。1919 年 3 月 21 日に成立したクン・ベーラのハンガリー・ソヴィエト政権において、ルカーチは教育文化相を務め、彼の指導の下「教育による大衆への文化の普及」政策が実施されていった。

1919 年 8 月のハンガリー・ソヴィエト共和国崩壊後、ルカーチは数名の同志と共にクンの命を受けハンガリーに残り、非合法の活動に従事した。しかし同志が次々に逮捕され自分の身にも逮捕の危険が及ぶと、ルカーチはウィーンに亡命し約 10 年間そこに住んだ。

ルカーチは 1920 年代を通して、哲学的観点からレーニン主義の思想を研究した。ルカーチが 1923 年に発表した『歴史と階級意識』は、後にマルクス主義の名著との評価を受けた。しかし、次第にルカーチは党内の教条主義者たちから批判を受けるようになっていく。1924 年 6 月の第 5 回コミンテルン大会において、ジノビエフからルカーチは理論上の修正主義者として激しい弾劾を受けた。コミンテルンによりルカ

ーチの戦略が批判されると、ルカーチの政治的影響力は失われていった。彼は表舞台からは退き、理論的な仕事に従事するようになる。

ソ連での活動

1930 年、ルカーチはモスクワへの召喚命令を受けた。子供たちを学業のためにウィーンに残し、妻と共にモスクワに向かった。モスクワではマルクス＝エンゲルス研究所に勤務した 1931 年末から 1933 年にかけてはドイツのベルリンに住みドイツ共産党に合流、活動した。1933 年のナチス政権掌握後、ルカーチは再びモスクワに戻り、ソ連科学アカデミー哲学研究所で文学史、美学などの研究に従事した。これ以降第二次大戦後まで、ルカーチと妻はソ連からの出国を許されなかった。また、ルカーチはソ連において幾つかの雑誌の編集の仕事にも従事している。1938 年にハンガリー共産主義作家による雑誌『新しい声』が刊行されるとルカーチも編集に携わり、母国ハンを持った。1942 年にソ連科学アカデミー哲学研究所でソ連における最高学位を得た。

1930 年代のソ連はスターリンの大粛清に荒れた時代であった。その粛清の対象は外国人も例外ではなく、コミンテルンに参加するためにソ連に住んでいた外国人共産主義者たちも粛清の波にのまれていった。ハンガリー人に限定して言えば、ソ連に亡命していたハンガリー・ソヴィエト共和国の指導者クン・ベーラを始めとする、革命政府人民委員 12 人が逮捕、処刑されている。ルカーチも逮捕され、タシケントに送られた。ルカーチはハンガリー人亡命者の 80% の命を奪ったスターリンの大粛清を生き延びた一人であった。

第二次世界大戦後

第二次大戦後、ルカーチは妻と共にハンガリーに戻り、ハンガリー共産党のメンバーとして、新政府の一翼を担った。1949年～1957年には断続的にハンガリー国会議員を務めた。

学問においては、1946年よりブダペスト大学（当時はパーズマーニ・ペーテル大学という名称であった。1950年からはエトブシュ・ロラーンド大学と改名される）の教授として教鞭を執った。1949年には、ハンガリー科学アカデミーのメンバーに選出され、ハンガリーにおける学術の振興に携わった。1948年と1955年には、学問・文化・芸術の分野、また、社会主義建設において優れた功績をおさめた者に与えられるコシュート賞を授与された。帰国後に著した著書『若きヘーゲル』、『理性の崩壊』などにより、東欧世界の代表的思想家としての立場を確立するが、1948年以降になると教条主義の力が増したハンガリーにおいてその活動の場を次第に失っていった。

1956年革命とその後の運命

1956年革命の際、文化相としてナジ・イムレ政府に参加した（これがもとで党から除名された）。そして革命が潰された時には、ナジと共にユーゴスラビア大使館に亡命を求め、その後ルーマニアに追放された。1957年4月にハンガリーに戻ったが、党に戻ることは叶わず、1958年に第一線から退く形となった。それ以降、晩年は美学や存在論等の執筆に没頭した（その後1967年にルカーチの名誉は回復され、ハンガリー社会主義労働者党のメンバーとなった）。

ルカーチ・ジョルジュは1971年6月4日にブダペストで息を引き取った。そして彼は今もブダペスト8区のケレペシ墓地に埋葬されている。

ブダペスト3区にはルカーチ・ジョルジュの名を冠した道があり、彼が生きた痕跡を感じることができる。また、13区のセント・イシュトヴァーン公園にはルカーチの像が建っていた（残念ながら、2017年に撤去され、現在はそれを見ることができない）。

木村香織（2019年）『亡命ハンガリー人列伝』
合同会社パブリブ 124－127頁より要約抜粋。





コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込） ◆A 5 判／ ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学
部の定番テキスト。体制転換の理論と転
換直後の現状を分析。各大学で教科書と
して使用。

盛田常夫著

第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の
比較分析に新たな視点を提供。

第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体
制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。

ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を
輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著

日本評論社

定価3800円

